

## 議 事 録

公開・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一部公開</span> ・非公開			非公開 部 分 理 由		個人情報にかかると部分
				保存期間	30 ( ) ・ 10 ・ 5 ・ 3 ・ 1 ・ 随
				作成日	令和3年 11月 4日
部長	課長	課長補佐	係長	係	記録者所属 企画振興課 企画政策係
					職・氏名 主査 土屋 素樹 印

  

会議等の名称	令和3年度 第6回市民まちづくり会議	開催日時	令和 3年 11月 4日 (木) 午前・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">午後</span> 6時 30分～ 午前・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">午後</span> 8時 00分
		場 所	本館2階全員協議会室
主催者(事務局)	企画振興課	司会者	大塚伸夫企画政策係長
出席者	有賀剛、大谷真宙、小夫真、倉寫智彦、坂口永一、篠原博文、鈴木絵美、 田中隆、柘植香織、中澤亥三、花岡裕子、松澤秀和、水間源、村山弘子 大塚企画政策係長、堀内、土屋 (傍聴人あり)		
欠席者	五十嵐豊峰、荻原猛、島田直政、竹内直弘、柳橋悠香		

  

議 題	(オンライン講演) ・ まちづくりで地域は変わるか (千葉大学齋藤雪彦教授) ・ 質疑応答	(配布資料) 別紙会議資料のとおり
決定事項 (要点を簡条書き)		
次回への検討 事項		
次回開催	(日時)	(場所)

討議内容及び経過	(発言者名)	(発言内容)
1 開会		
2 オンライン講演 質疑応答	齋藤教授	「まちづくりで地域は変わるか」をテーマに発表
	委員	発表の中で「お祭り広場」をつくるというお話がありましたが、「お祭り広場」をつくるポイントはなんでしょうか
	齋藤教授	一つはなるべく広く使える。広場に樹木やベンチなどあるが周辺部に配置し、イベント時と普段使いの両方使い勝手のよいというのが設計上のポイントとなる。 樹木やベンチなどがイベント時のステージなどを設置する際、邪魔にならないように配置することが大切。
	委員	まちづくりのやり方として「トップダウン型」でこういう街を目指そうと将来をイメージするやり方と「ボトムアップ型」で少しずつ環境を見直し少しずつやっていこうとするやり方があると思いますが今までの経験の中で住民賛同を得やすいのか巻き込みやすいのかはどちらでしょうか。
	齋藤教授	やはり住民が多く参加していただくにはワークショップなどの活動が非常に有効。「トップダウン型」だと命令という要素があるのでなかなか難しい。
	委員	まちづくりやシティプロモーションをする中で従来だと見るだけというのが多かった。もっと体験をしたりまちを歩くなど実際に触れる機会を多くし、まちづくりやシティプロモーションを進めていくためにアドバイスをいただけますでしょうか。
	齋藤教授	体験型が非常に大切であると思うが、（具体的なアドバイスを求められれば答えるが）自発的に私（齋藤教授）からアドバイスはしゃべらないことがポイントだと思っている。そうでなければ、私（齋藤教授）が言ったとおりに動くと住民たちが自発的に動けなくなってしまう。私（齋藤教授）がいなくなってしまうたらまちづくりが動かなくなってしまう。
	委員	ありがとうございます。私どもも先生の資料にあります「環境点検」から初めていったらいいかなと思っています。
	松澤委員長	委員から話ありましたが、齋藤教授からもご提案いただいている「環境点検」を市民まちづくり会議でやってみたいと思いますがいかがでしょうか。
	委員	まだその結論を出すのは早いのでは。まず委員の皆さまから質問を受け付けたあとその議論をしませんか。 齋藤教授の事例発表で千葉県君津市の事例を取り上げていただいたのは、東御市と似ている部分があるからだと思いますが、事業をやるには予算が発生しますが、予算の使い方や人の流れや動きがあれば教えていただきたい。
	齋藤教授	東御市と君津市が似ている部分を挙げるとすごく恵まれている地域なのであまり危機感がない。また自然豊かな部分も似ている。 予算の話ですと、君津市と勝浦市ではまちづくりを行う市内団体へ年間100万円の補助を行っている。もともと君津市が作った制度で勝浦市には私（齋藤教授）から市長に話をし補助する制度を作ってもらった。勝浦市は年間最大3団体で300万円ほどの予算だが君津市は10団体ぐらい補助を行っている。自分たちの手弁当だと辛いので補助することによってまちづくりが持続していく。 勝浦市では団体がいつまでも補助金に頼らず自立していくために最大5年間というルールも設けている。 人の流れの事例ですと、君津市貞本地区（※ワークショップを行った地区）の場合、隣が市街地ということで市街地からお客さんが来るようになった。（例えばワークショップにも参加していただいたり、農作業体験など） また大船渡市の場合ですと、津波で家が流された人たちは離れたところに仮設住宅が出来たり高台移転してしまい地区の中で家が流されなかった人と空間的に分けられてしまい会う機会がなくなっていたが、朝市をやったり広場を作ることによりまたみんなが集まれる場が出来たことが大きな成果となっている。またHPやFacebookを見て東京など外から来てくれる人もいて復興支援につながった。

委員	地域を住みやすくすることがまちづくりだと考えている。私個人は地域の人たちの不安を解消してあげる安心のまちづくりが基本だと思っており、東御市へ「共同墓地」の件を提言している。齋藤教授の経験の中で共同墓地をまちづくりの中で検討したことはありますか。（事前の齋藤教授への質問項目でも提出している）
齋藤教授	私の今までの経験に中ではありません。 まちづくりはとても幅が広い。まちづくりの提案はできるが、事前に質問いただいた中で墓地や福祉など個別の質問だと専門外になってしまうので回答はしかねてしまいます。
委員	資料の最後のページにあります「住みやすさ」とありますが、具体的にどういことを「住みやすさ」というのでしょうか。定義があれば教えていただきたい。 また同ページに「全体を考える」とあるが基準があれば教えていただきたい
齋藤教授	「全体」ということは数値化するものではない。全体も考えて部分も考えましょうぐらいの感じで受け取ってほしい。 まちづくりの中でその地域にとって何が「住みやすい」のかを考えていただくことも大切。あまり定義などなく、理系的でなく文化的にアバウトに考えていただきたい。
大塚	今後、齋藤教授にどのように関わっていただくか、お手伝いしていただくかまだ決まっておりません。「環境点検」の実施を齋藤教授からご提案いただき、正副委員長の方ではぜひやってみようという事で今日は、委員皆さまにもお繋ぎさせていただいた。これから委員の皆さまが地域へ繰り出してやってみようという話がまとまりましたら、齋藤教授とも相談させていただき、委員の皆さまと検討させていただきたいと考えております。
松澤委員長	私ども（正副委員長）ではやってみようと考えておりますが、委員の皆さまいかがでしょうか。
委員	この場で「環境点検」をやることを決定してしまうのではなくどうやったらよい「環境点検」できるか、どんな東御市を見てみたいかという話し合いの場を作るべきだと思います。また「環境点検」をやるにあたって今までの委員の発表をまとめてから実施するべきだと思います。
委員	私も賛成です。この場で決定してしまうのではなく今回齋藤教授のお話をお聞きして一度各委員で整理し、やる方向性、やらない方向性、あるいは齋藤教授の関わり方を検討した方がよいと思う。
委員	（案）というものが無いと難しい。事務局でどのように「環境点検」を実施するかたたき台（案）を作ってください次回の会議でみんなで検討した方がよいと思います。
委員	齋藤教授にお聞きします。 「環境点検」をする場合に「部分」をみるとはどういうことでしょうか。
齋藤教授	東御市全体を考えるというのも大事だが、市全体だと広いので、やはり地区ごと見ていく方がよいという意味の「部分」です。車や自転車ではなく実際に歩いて見るスケール感でその地区をちゃんと見る事が「部分」
松澤委員長	どのように「環境点検」を進めていくのかどこを回るのかなど事務局と相談し、次回話をさせていただきたいと思います。
大塚	「環境点検」について、実施の有無、場所など皆さまと話し合いをして決めていきたい。今日は齋藤教授の「環境点検」は一つの提案として皆さまに聞いてほしかった。次回以降、グループが2つに分かれ今後どのように動いていくか次回話し合いを行っていきたい。
5 閉会	